コロナ禍における東大土木・社会基盤同窓会のホストファミリープログラム

東大土木・社会基盤同窓会では、専攻に所属する留学生を対象として登録した学生一人につき卒業生ひと家族が入学から卒業までをサポートするホストファミリープログラムを運営しています。

昨年 3 月に COVID19 による緊急事態宣言が発令され、来日している留学生たちも一斉にオンラインでそれぞれの自宅で講義を受け、研究室のミーティングに参加することになりました。

宣言発令後しばらくは、学生もよほどの理由がない限りキャンパスに来ることができず、学生の孤立が心配されました。そこで、プログラムに加入している学生（全留学生の半数ほど）に個別でメール連絡を取り、安否確認を行いました。また、OG ホストの方がお子さんと一緒に手作りのマスクを作って下さり、希望する学生たちに郵送でマスクと手紙を送っていただきました。（写真右）発令当初は日用品が店頭から無くなり、異国の地で心細く思う学生もあったようで、そのような状況での贈物はとても喜ばれました。

その後連休明けに、自粛宣言が続行する中、今度は留学生に対して、自分のホスト家族にメッセージを送ってみないかという案内をしてみました。自分たちがケアされるばかりでなく、小さいお子さんやご年配のホストファミリーが多い中、声をかけるということで学生が貢献できる部分もあると思ったからです。

その後は、状況も落ち着き、年末に再び学生たちに連絡をしたときには、ホストファミリーと連絡を取り合っている学生が思った以上に多かったので、安心することができました。

当会の運営するホストファミリープログラムは、現在総勢 60 名近い学科卒業生が登録し、専攻に留学してくる学生をゆるやかにサポートしています。今年 9 月に 2 週間のホテル待機を経て入国した学生にもリモートでホストファミリーをご紹介しました。（写真左）

ホストの方は会食はできずともお菓子の差し入れをしたり、様子をみてくださっています。

先行きが見えない状況で、専攻に来てくれた海外からの学生が安心して日本で過ごせるよう、これからも同窓会活動の力でフォローしていきたいと思います。

（東大土木・社会基盤同窓会　ホストファミリープログラム
コーディネーター赤池あゆこ（1995 卒））